



川守町遺跡 遺構配置図



陸奥湾を見下ろす川守町遺跡

現地見学会資料

かわもりちょう

# 川守町遺跡

所在地：むつ市川守町地内

調査機関：青森県埋蔵文化財調査センター

調査原因：国道 338 号大湊Ⅱ期バイパス道路改築事業

調査年月日：令和 6 年 5 月 8 日～令和 6 年 10 月 11 日

川守町遺跡は、国道 338 号大湊Ⅱ期バイパス道路改築事業に伴い青森県埋蔵文化財調査センターが調査を行っています。

本遺跡はむつ市役所の南西約 4 km、標高 37 ～ 45mの海岸段丘上に位置しています。遺跡の西側には下北半島の最高峰である釜臥山（標高 878.2m）がそびえ、東側には陸奥湾が広がっています。

調査の結果、縄文時代前期から後期の断続的な遺跡であることが判明しました。前期後葉から中期前葉（約 5,500 年前）には竪穴建物跡 1 棟、中期末葉から後期初頭（約 4,100 年前）には竪穴建物跡 4 棟・土坑 18 基などが確認されました。

むつ市には 185 箇所の遺跡が所在しており、本遺跡周辺の段丘上に多くの遺跡が分布しています。本遺跡の北約 1.3 kmには、大湊近川遺跡が位置しており、縄文時代後期後葉から末葉（約 3,000 年前）の集落跡が確認されています。また、酪農（3）遺跡・内田（1）遺跡は、縄文時代後期初頭から前葉の集落跡で酪農（3）遺跡からは環状列石が発見されています。



国土地理院発行の電子地図 25000 を加工して作成

川守町遺跡と周辺の遺跡

青森県埋蔵文化財調査センター  
〒038-0042 青森市新城字天田内 152-15  
TEL. 017-788-5701  
<https://www.ao-maibun.jp>



ホームページ



Instagram

②縄文時代前期後葉から中期前葉の遺構（約5,500年前）



竪穴建物跡 (SI15)

平面は円形で、直径は3mほどです。深さは40cmほどで、中央に地床炉が作られています。



地床炉 (SI15内)

平面は円形で、床を浅く掘り込んで作られています。



③フラスコ状土坑 (SK25)

断面がフラスコ形の土坑です。平面は円形で直径は2m、深さは1.4mほどです。食料などの貯蔵穴と考えられています。



④溝状土坑 (SV1)

断面はV字形で深く細長い土坑です。長さは3m、深さは1.4mほどです。落とし穴と考えられています。



②縄文時代前期後葉から中期前葉の遺構

①縄文時代中期末葉から後期初頭の遺構

①縄文時代中期末葉から後期初頭の遺構（約4,100年前）



竪穴建物跡 (SI12)

平面は円形で、直径は4mほどです。深さは10cmほどで、中央付近に石囲炉が作られています。



石囲炉 (SI12内)

平面は方形で、石は部分的に配置しています。



フラスコ状土坑 (SK13)

断面がフラスコ形の土坑です。平面は円形で直径は1.4m、深さは80cmほどです。食料などの貯蔵穴と考えられています。



土坑 (SK12)

平面は円形で、浅い土坑です。直径は80cm、深さは16cmほどです。